

選挙の仕組み学ぶ

南陽高3年11人、模擬投票

南陽高校(港区大西)で九日、選挙の仕組みを学ぶ講座があ

り、三年生の十一人が市長選を題材にした模擬投票を体験した。

区選挙管理委員会の職員らが講師を務めた。職員らは十〜二十代の投票率が低いことを紹介し「これでは若者の意見が政治に反映されない」と、積極的な投票を促した。さらに「入れたい候補者がいなければ、なっほしくない人以外の候補者に入れる意思表示もある」とも説明した。職員二人を市長選の候補者に見立てた模擬選挙では、それぞれの公約を書いた公報や演説を参考に、実際に使われる記載台や投票箱を使って投票した。岩月絢音さん(二〇)は「意思表示の方法など知らないこともいっぱいあって興味を持てた。機会があったら投票に行きたい」と話していた。(井本拓志)

区選挙管理委員会の職員らが講師を務めた。職員らは十〜二十代の投票率が低いことを紹介し「これでは若者の意見が政治に反映されない」と、積極的な投票を促した。さらに「入れたい候補者がいなければ、なっほしくない人以外の候補者に入れる意思表示も

模擬選挙の授業で投票箱に票を入れる生徒。港区大西の南陽高で

